

# 緑化センター

# みにがいど

No.9

## 夏鳥のさきがけ オオルリ



桜の花が咲き、新緑が伸びる4月中旬には緑化センターにオオルリが必ず渡ってきます。コマドリ、センダイムシクイに続いてオオルリのさえずりが聞こえてくると、夏鳥の世界になるようです。冬の間を緑化センターで過ごしたツグミやシロハラもオオルリのサエズリを聞いて北に帰る気になるのではないのでしょうか。オオルリはスズメほどの小鳥で、高いこずえに止まってさえずることが多いために、おなかの白と顔の黒のプロポーションで見えるのが普通ですが、特に雄の頭や背中の中の色(濃い青色)が光を受けたときに見られる金属のような光沢は最高です。一方雌は地味な薄茶色で目立たない存在で、巣作り、子育てに専念して夏をすごします。

## オオルリ ヒタキ科

鳴き鳥の仲間は、春に南方から渡って来て子育てをする種類が多い。静かな森や林で聞くオオルリ、コマドリ、コルリ、クログツグミなどのさえずりは天然の美ともいえる響きを感じられる。その快い調べ(メロデー)には天性の高音から低音と、重複や反復の調べが織り込まれているようで、その姿は見えなくてもさえずりを聞いていると新しいアイデアが生まれてきそうです。素晴らしいさえずりができる鳥であることは、やがて来る雌にアピールするための呼び声でもあるのです。高低自在なさえずり(転鳴)が健康で活発である証の意味を伝えることになるのです。雌鳥が歌声に魅了されてテリトリーに居つくとさえずりはいっそう快調になり、巣作りをおえて雛鳥が巣立つまで調子は少し落ちますがさえずりは続きます。

文と写真 吉見良一氏

コーヒーで一息入れませんか  
緑化センター レストハウス